



### 歩行者目線から考える安全運転

大隅教育事務所 管理課長 富 卓哉

私は毎朝、可能な限り我が子と途中まで一緒に登校することになっています。わずか20分程度の時間ではありますが、子供とゆっくり会話ができない日もあるため、私にとっては子供と触れ合える貴重な時間となっています。

そのような道中、いつも子供に「ここは特に車に注意しよう。」と注意喚起する場所があります。それは車の一時停止線です。なぜかという、ここを通る車の多くは車体が線を越えて停止するため、スピードの出た車が突然目の前に現れ、恐怖心を感じる場面を幾度も経験してきたからです。停止線を越えた一時停止の危険性については、運転しているときには意識することはありませんでしたが、歩行者の立場になって初めて気付かされた点でした。なお、道路交通法第43条では、「道路標識等により一時停止すべきことが指定されているときは、道路標識等による停止線の直前で一時停止しなければならない。」と定められていることから、停止線を越えての一時停止は、道路交通法違反に該当すると考えられます。

当然のことではありますが、道路は様々な人が、決められたルールを守って運転・通行することで安全が保たれており、そのような中でルールを守らない人が増えれば、事故が起きる可能性は必然的に高まります。今後は、自分の運転が、歩行者にとって危険な運転となっていないかを常に意識し、歩行者の目線に立った運転を心掛ける必要があると考えています。

私はこれまでに、「周りの車に急ブレーキを踏ませない運転をする」というルールを自分なりに設定してきました。これに加え、今後は、「歩行者が安心・安全に歩行できる運転をする」という視点を新たに追加し、引き続き安全運転に努めてまいりたいと考えています。

### 地域が育む「かごしまの教育」県民週間に見る 学校・地域の協働と子供たちの学び

今年度は、ポスター原画の部に38校、標語の部に78校、のべ116校と多くの学校が取り組んでくださいました。ありがとうございました。ポスター原画の部最優秀賞の垂水市立新城小学校の日下咲さんと標語の部最優秀賞の志布志市立伊崎田小学校の溝上新さんには、県教育委員会教育委員からそれぞれの学校で賞状が授与されました。当日は、受賞した子供たちが少し緊張した面持ちで賞状を受け取る姿が印象的でした。一方で、その様子を見守る学校・地域・保護者の皆様の表情には、取組が評価されたことへの喜びと、成長を誇りに思う気持ちであふれていました。

さて、県民週間中に大隅教育事務所からも地域の一員として42校の学校を訪問させていただきました。それぞれの学校では自由参観や多彩な行事等を開催し、地域の皆様と一緒に楽しそうに学んでいました。志布志市立原田小学校では、1・2年生と校区高齢者とのふれあいの時間の真っ最中でした。お手玉やあやとり、紙細工や竹細工等、高齢者の方々が昔遊びの先生となり、子供たちに笑顔で関わってくださる姿が印象的でした。活動の最後には子供たち手作りのお守りを渡し、感謝の思いを表しました。今回の取組に際して市社会福祉協議会の皆様が学校と協力し、高齢者の皆様の送迎を担当してくださったとのことです。子供たちにとって心に残る貴重な体験になるとともに、地域、関係機関と連携した学校の取組として参考になりました。

各学校では、来年度に向けて、今年度の県民週間で体験したことや楽しかった思い出を標語やポスターの原案として残し、次年度の取組につなげていただきたいと思います。そして来年度も、学校・家庭・地域が連携した取組が更に広がり、子供たちの豊かな学びにつながることを期待しています。



## 連携を力に よりよい大隅の教育へ ～合同計画学校訪問を終えて～



本年度の「大隅教育事務所・各市町教育委員会合同計画学校訪問」24校を無事終えることができました。訪問校の皆様には、準備や当日のご対応に心より感謝申し上げます。整然とそろった靴や明るい挨拶、地場産物を活用した食育、タブレットを用いた協働的な学びなど、子供たちの意欲と落ち着いた学校の雰囲気を実感できました。校長先生の思いと先生方・児童生徒の努力が、豊かな教育環境を生み出していると感じています。

今後も市町教育委員会や学校と連携し、得られた情報や取組を共有し、よりよい教育づくりに努めてまいります。よろしくお願いいたします。

## 研究協力校等の取組（11月終了分まで）

11月までの研究協力校等の公開は、以下のとおりです。

各学校の取組内容につきましては、記載の二次元コードからご覧いただけます。

県・地区研究協力校「学校における教育の情報化」研究公開（田代中）

期日

10月21日（火）

研究協力校

錦江町立田代中学校

研究主題

『個別最適な学び』の実現に向けて

～生徒の主体的な学習を促すICT機器などの効果的な活用～



地区研究協力校「学力向上」・曾於地区へき地・小規模校教育連絡協議会研究委嘱校研究公開（松山中）

期日

10月24日（金）

研究協力校

志布志市立松山中学校

研究主題

主体的に学び、表現できる生徒の育成

～協働学習と振り返りが生み出す学びのつながり～



地区中学校道徳教育研修大会兼地区研究協力校研究公開（大崎中）

期日

11月26日（水）

研究協力校

大崎町立大崎中学校

研究主題

生徒が主体的に考え、議論する道徳科の授業づくり



## 地区フレッシュ研修

大隅地区フレッシュ研修「研究授業研修（道徳科）」が11月11日（火）に野神小学校と松山中学校、12日（水）に田崎小学校で行われました。

授業研究では、授業における子供たちの姿や各自で作成した分析シートを基に、授業づくりのポイントについて話し合いました。

初任者からは「道徳の授業で大切にすることがこれまで曖昧であった」「授業では子供たちに真剣に向き合ってきたが、これからは子供たち同士の交流や議論の時間をもっと設けていきたい」「なぜ考える必要があるのか、なぜ議論する必要があるのかが明確になった」等の感想がありました。

本研修を通して「考え、議論する道徳」の授業を実現し、子供たちによりよく生きるための道徳性を養うことができるよう努めていきます。



## 県PTA活動研究委嘱公開錦江町大会

12月6日（土）、錦江町文化センターにおいて、「錦江町の地域力を活かした持続可能なPTA活動の在り方について」を大会テーマに、本公開が開催されました。

当日は、錦江町立大根占小学校 及び 田代中学校のPTAが、活動の充実・発展についての実践発表を行いました。質疑応答では、参加者の皆様との活発な研究協議や情報交換が行われました。また、フリーアナウンサーの岡本安代様とスポーツキャスターの宮下純一様によるトークセッションでは、ご自身の子育て経験や家族との関わりについて、実体験を交えながら語っていただきました。保護者の皆様にとっては、子育ての悩みや喜びと重なる部分が多く、会場のあちこちで、うなずきながら聞き入る姿が見られました。温かく心に残る、実りある時間となりました。



## 心の脇見運転にご注意を ～年末年始の安全運転～



今年度大隅地区で発生した交通事故や速度超過のほとんどが漫然運転によるものであります。漫然運転とは、運転手の注意力が散漫になり、無意識のうちに何となく運転している状態のことを言い、「心の脇見運転」と言われることもあります。漫然運転の要因は、体調不良等の生理的要因、ストレス等の心理的要因、渋滞等の環境的要因と様々あり、誰にでも起こりうるリスクであると言えます。

年末年始は慌ただしく人が動く時期ですので、必然的に交通事故等のリスクは高まります。自分の心身がどのような状況なのかを認識し、必要に応じて休憩や気持ちの切替等により運転に集中できる環境を整えることが必要だと思えます。今年度も残り3か月。何事もなく健康に年度末を迎えることができるよう引き続き安全運転に努めましょう。



## 魅力ある学校づくり

本年度、新規不登校や問題行動等の未然防止に向けて、大隅教育事務所では「魅力ある学校づくり」に向けた取組を推進しています。そこで今号では、本年度作成・配布したリーフレットに基づき、Step1～4を充実させるためのポイントを、大隅地区内の学校における実践事例と併せて御紹介します。

### STEP1 児童生徒の声を聞くアンケートの実施

A中学校では、下図のようなオンラインフォームを作成し、生徒に回答を求めていました。四つの設問をデジタル化することで、回答結果を自動的に集約でき、直ちにグラフ化することができます。

児童生徒から集めた声は、数値だけで示すよりも、棒グラフや円グラフなどで視覚的に整理することで、教職員が現状をより正確に把握しやすくなります。こうした即時集約・即時可視化を可能にするためには、アンケートのデジタル化が大変有効です。Micro softフォームスや Googleフォームなどのデジタルツールを活用したアンケート実施を、検討してみましょう。

#### 学校生活アンケート 1年(6月)

学校生活に関するアンケートです。皆さんが学校生活をどのように感じているかを教えてください。  
各質問では、どちらか一つ選択して下さい。  
学校が楽しい\*

- ☐ 楽しい  
☐ どちらかと言えば楽しい  
☐ どちらかと言えば楽しくない  
☐ 楽しくない

### STEP2 「見積もり値」と「アンケート結果」の“ズレ”に着目した分析

第(1)②(3)期 「魅力ある学校づくり」意識調査の分析報告				1回の	
教 師 層	学 生 層	教 員 層	学 生 層	学 年 部	学 年 部
イ みんなで何かをするのは楽しい	1年	< 50.0 % >	46.0	51.9	63.4
	2年	< 41.9 % >		75.0	
	3年	< 40.6 % >	38.2	80.0	78.3
	4年	< 35.7 % >		76.6	
	5年	< 22.5 % >	23.0	73.0	72.0
	6年	< 23.5 % >		71.1	

なぜ、低い結果になったか。学年部や全職員での取組の取り組み状況はどうであったか学年部で振り返り、2学期以降の学年部の取り組みを決定し、Teams (R7職員会議)→魅力ある学校づくり)に入力ください。第3回12月調査での見積もり値も記入してください。(左表 黄色部分に記入)  
★ 簡単に先生方が持続可能な取り組みを考えましょう。

B小学校では、上図のような資料を用いて2回目のアンケート結果を整理していました。1学期に定めた共通実践では、見積もり値を「79%」と設定していましたが、実際の児童の意識は35.7%と大きく下回っていることが明らかになりました。

本取組のポイントとして大切なことは、数値の増減に一喜一憂することではなく、上図にもあるように「見積もり値を下回った理由」について全教職員で話し合うことです。見積もり値に達しなかったことは、共通実践が子供たちにとって十分に魅力を感じられる取組になっていない可能性があります。この振り返りが重要であり、児童の声を踏まえ、取組の更なる改善につなげましょう。

### STEP4

#### 年3回のPDCAサイクルによる取組の点検・見直し

「魅力ある学校づくり」においては、Step1～3の取組を年3回計画的に位置付け、PDCAサイクルを継続して機能させることが重要です。その際、学校全体の方向性を示し、教職員の取組を力強く支える管理職の役割が欠かせません。

下図は、C小学校校長が共通実践事項を取り組むに当たり、保護者に向けて発出した文書の一部です。このように、本取組に対する管理職の継続的な後押しが、教職員の共通実践を促すとともに、児童生徒にとって安心・安全な「魅力ある学校」へとつながっていきます。

学校保護者様

令和7年9月12日

校長 〇〇〇

毎月15日「ひと(ひと)・一(ひと)」ほめ『心づくり日記』の実施について

志布志市には、「子ほめ条例」という条例があります。志布志市の児童生徒の個性や能力を発見し、これを表彰することによって、心身ともに健全な児童生徒を地域ぐるみで育てることを目的とし、毎月15日を「子ほめの日」として設定しています。

子どもたちは、誕生から今日まで、それぞれの家庭で家族と過ごし、園や学校で家族以外の友達や先生、地域の方との交流から様々なことを学んできました。大人や友達とふれ合いながら、思いやりの心や自他を大切にできる心、ボランティア奉仕活動など、今後、子どもたちが社会で生きていくための姿勢を身に付けてきました。

そんな子どもたちの姿を認めるための「褒める言葉」や「感謝の言葉」は、より一層子どもたちの寛容な心を育みます。「大人が自分のことを褒めてくれた。」という思いは、今度は

### STEP3 具体策の確実な実施

C小学校では、「ア 学校が楽しい」という項目に着目し、親子や友達同士で「ほめる言葉」や「感謝の言葉」を伝え合うことで、自己肯定感や自己有用感が高まると考えました。実際には、下図の「心づくり日記」に全校で取り組み、日常的に温かい言葉を交わす機会を創出しています。「魅力ある学校づくり」で重要なことは、学校全体で取り組むことです。新たな活動のみならず、今行っている全校での活動が「児童生徒にとって魅力的か」という視点で見直し、共通実践へつなげていきましょう。

